OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	論文著者紹介/教員紹介，投稿規定，編集後記，奥付
Author(s)	
Citation	Communication-Design. 2008, 1, p. 218-222
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/22077
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

論文著者紹介

※大阪大学コミュニケーションデザイン・センターは、CSCDと略す。

池田光穂（いけだ みつほ）
CSCD 教授
中央アメリカ地域をフィールドにする文化人類学（とくに医療人類学）が専門。最近は「現場力」に関する理論的考察や中央アメリカの先住民族の人たちの文化的アイデンティティと国民国家の関係、さらには生物医学の研究室の民族誌方法論の開発も手がける。

伊藤京子（いとう きょうこ）
CSCD ／大阪大学大学院基礎工学研究科 助教
専門はヒューマンインタフェース工学。人間同士のコミュニケーションを支援するツールの開発を中心として研究をすすめている。対象は、ネットワーク型議論支援ツール、アフェクティブインタフェース、リスクコミュニケーション、３次元合成顔表情など。

尾方義人（おがた よしと）
CSCD ／大阪大学大学院工学研究科 准教授
専門研究は、3DCAD/CAM/CGからのデザイン群を要素にしたデザインエンジニアリング、デザインテクノロジー、デザインコミュニケーションとデザインマネージメント。専門実務は、空間、情報、プロダクトデザインとデザインディレクション。

春日匠（かすが しょう）
CSCD 特任助教
文化人類学、科学技術社会論専攻。国際的な社会運動のネットワークがどのように構築されるかを、インド、ブラジルなどの事例から研究している。また実践面として、日本におけるサイエンスショップの導入の可能性などを探っている。NPO法人サイエンス・コミュニケーション理事。

工藤直志（くどう ただし）
大阪大学大学院人間科学研究科 社会環境学講座博士後期課程
現代日本の医療を、社会学の立場からどのように理解し解釈できるのか。臓器移植、遺伝カウンセリング、電子カルテ、緩和ケアを研究対象として、この課題を追求している。

久保田テツ（くぼた てつ）
CSCD 特任講師
専門はメディア・デザイン。映像やグラフィックを中心としたビジュアル表現の研究・実践と、ドキュメンテーション手法の開発に取り組んできた。現在、学生や市民に向けた映像や現代美術の鑑賞機会と、ワークショップなどによる表現の場の創出活動に力を入れている。

小林傳司（こばやし ただし）
CSCD 教授
専門は科学技術論、科学哲学。1998年～ 2000年にかけて、市民参加型テクノロジーアセスメントのコンセンサス会議に携わり、その後、参加型テクノロジーアセスメントに関する理論的研究を行っている。最近は、現代社会における科学技術の社会的、政治的意味についての検討に関心をもつ。

小林仁（こばやし ひとし）
大阪大学大学院人間科学研究科（ボランティア講座共生社会論） 博士前期課程
地域共生を目的としたグループ・ダイナミックスを専攻。データハンダイプロジェクトに立ち上げ当初から参加し、以来自身の主な研究テーマとして設定する。学生の中心として活動に関わると同時に、社会的表象理論の逆行事例として研究を進めている。

志賀玲子（しが れいこ）
CSCD 特任教授
専門はコンテンポラリー・ダンスを中心とする舞台芸術企画製作。兵庫県伊丹市立アイホールプロデューサー。コンテンポラリー・ダンスの状況づくり、表現者・観客育成に関わる事業を企画。現在、ALS患者の在宅独居生活支援と、芸術と福祉・地域生活の新たな出会いの可能性を模索する〈ALSDプロジェクト〉推進中。

清水良介（しみず りょうすけ）
CSCD 特任助教
専門は情報デザイン・グラフィックデザイン。情報を基軸に具体的なモノ、プロジェクトを支える仕組みのデザイン等、様々なデザインの実践を行っている。CSCDでは本書のデザインをはじめ、各種アイテムのデザインを担当。VI設計を通してデザインコミュニケーションを実践的に研究している。

関嘉寛（せき よしひろ）
CSCD ／大阪大学大学院人間科学研究科 助教
ボランティアや市民活動の理論的研究と震災復興等の現場に関する研究・実践から、新しい公共性のあり方に関心をもつ。CSCDでは、1. 減災に関する研究、2. 中越地震後の災害復興についての研究、3. 災厄に関わる記憶の伝承と博物館研究、4. 地域への関心と伝達表現の研究を行っている。

髙尾正樹（たかお まさき）
CSCD 招へい教員／大阪大学先端科学イノベーションセンター 特任助教
サイエンスショップ等の大学の推進する社会貢献活動について、技術経営、科学技術政策の視点から研究する。現在は、いくつかの試験的活動を通じて市民、大学、企業を組み込んだシステムを構築し検証を実施している。

高橋綾（たかはし あや）
CSCD 招へい研究員
メルロ＝ポンティの身体論を中心とした現象学の研究や、ヴィゴツキー、エンゲストロームなどの現代的学習論の研究を行う一方で、哲学的対話活動の実践（哲学カフェ、こどものための哲学）にも取り組んでいる。

竹内亮介（たけうち りょうすけ）
大阪大学大学院理学研究科 数学専攻博士前期課程
代数幾何学、特にGromov-Witten不変量というある条件を満たす安定写像の数について研究した。初の学生主体となった知デリでは、二人のゲスト渉外を行い、トークセッションの内容を選定し、当日は司会進行を務めた。

中川智絵（なかがわ ちえ）
大阪大学大学院理学研究科 生物科学専攻博士後期課程
もともとは分子生物学を専門に研究をしていた。科学技術コミュニケーションの授業を受けたことをきっかけに、サイエンスショップの活動に参加するようになった。今は大阪大学サイエンスショップの事務局の一員として活動に携わっている。

仲谷美江（なかたに みえ）
CSCD 特任准教授
専門は認知心理学、インタフェース工学。高齢者共同住宅の建築にも関わってきた。現在、思い出工学、エンターテインメントコンピューティング、安心安全インターフェースの研究に従事。

西川勝（にしかわ まさる）
CSCD 特任准教授
精神科看護、血液透析看護、高齢者介護の現場を20数年にわたり遍歴。臨床哲学に関わる研究と実践にも従事。現在は「認知症ケア」に関わるコミュニケーションの研究・実践を進行中。

西村ユミ（にしむら ゆみ）
CSCD 准教授
専門は看護学。急性期医療の看護ケアや遺伝カウンセリングにおける医療者の実践、及びがん患者や犯罪被害者家族の経験の記述に取り組む。CSCDでは、身体論（現象学）や実践知、現場力をキーワードとして、対人コミュニケーションの教育・実践的研究に携わる。

花村周寛（はなむら ちかひろ）
CSCD 特任助教
専門はランドスケープデザイン。「風景」をテーマに、アートイベント展覧会場などの空間デザイン、インスタレーションなどのアート作品やプロダクトの製作、映画・映像を中心にした表現活動、環境リサーチとビジュアル表現を組み合わせた情報デザインなどを行う。

本間直樹（ほんま なおき）
CSCD ／大阪大学大学院文学研究科 准教授
コミュニケーション論を軸に、臨床哲学では、哲学的対話の方法論と実践、「こどもの哲学」、身体・セクシュアリティ論などに取り組む。CSCDではワークショップ記録を含めた映像コミュニケーションの実践的研究にも挑戦。

八木絵香（やぎ えこう）
CSCD 特任講師
専門は、科学技術社会論、原子力社会工学、災害心理学。原子力立地地域を中心に、市民と専門家が対話する場の企画・運営をしてきた。現在は、科学技術コミュニケーション能力向上のための教育プログラム開発と同時に、市民参加型で科学技術の諸問題を解決するための枠組みについて研究している。

山崎吾郎（やまざき ごろう）
日本学術振興会特別研究員（PD）
臓器移植医療を中心に、先端医療技術と人間の関係について人類学の立場から研究している。

教員紹介 （2007年度着任、特集P16参照）

小林恭　こばやし きょう（1947年 兵庫県）
1970年京都大学教育学部卒業、1975年京都大学大学院教育学研究科博士課程（教育人間学専攻）単位取得退学、京都産業大学教養部専任講師（フランス語）を経て、1979年より大阪外国語大学に勤務、1997年より同大外国語大学国際文化学科比較文化講座教授。2007年10月よりCSCD教授就任。

高田珠樹　たかだ たまき （1954年 福井県）
1976年大阪外国語大学ドイツ語学科卒業、1981年京都大学大学院文学研究科博士後期課程（哲学専攻）単位取得退学、1981年大阪外国語大学ドイツ語学科助手、同助教授を経て1998年より同大外国語学部地域文化学科ヨーロッパII講座教授。2007年10月よりCSCD教授に就任。

林田雅至　はやしだ まさし（1955年 兵庫県）
1979年東京外国語大学・外国語学部（ポルトガル・ブラジル語学科）卒業、1983年東京外国語大学・大学院修了、1986年 より大阪外国語大学助手に就任、助教授を経て2003年より同大外国語学部地域文化学科教授。2007年10月よりCSCD教授に就任。

森栗茂一　もりくり しげかず （1954年 兵庫県）
1977年大阪教育大学卒業、高校教諭を経て、1990年大阪外国語大学助教授（日本文化学）。1995年の阪神大震災後には、震災復興からコミュニティづくり（神戸まちづくり研究所理事）に関わったことをきっかけに現在の活動へ。2007年10月よりCSCD教授に就任。

投稿規定

1. 投稿者の資格

投稿者（筆頭著者）は原則としてコミュニケーションデザイン・センター教員に限る。ただし、Communication-Design編集担当（以下、編集担当）が承認または原稿執筆を依頼したもの（寄稿論文）についてはこの限りではない。

2. 投稿原稿の内容・種類・頁数

2.1 内容

投稿原稿の内容は自由だが、広義のコミュニケーションデザインの概念、実践・教育方法の開発に寄与するものを対象とする。原稿の種類は、論文、実践報告、研究ノートとする。

2.2 種類

2.2.1 論文

学術的な論文

• 原著論文（Original Paper）

当該分野における新しい研究・開発の成果の記述で、研究の対象、方法、あるいは結果に独創性、創造性があり、かつ明確で価値のある結果や事実を含む。

• 総説論文（Review Paper）

対象とする分野における研究の、歴史的背景、重要性、進捗状況、今後の発展の方向などを踏まえつつ、著者の学術的、技術的な研究、あるいは開発成果を総合的にまとめたもの。

2.2.2 実践報告

社学連携の報告など

例：技術報告（Technical Report）：設備・装置・ソフトウエアなどの設計・政策・試験・運用・評価などの新しい経験やその結果の報告で、実用的価値のあるもの。

2.2.3 研究ノート

上記1、2のカテゴリに当てはまらない原稿（下記の例示を参照）

• 短報（速報）：今後論文にまとめる予定の試論、又は速報的なもの。

• 提言：社会に対して提言を行うもの。

• 資料：論文のスタイルに収まりにくいもの。委員会・研究会が集約した意見・報告書など。

• 編集者への手紙（letter to editor）：論文に対する意見、編集に対する意見など。

• 話題：最近注目されている事柄等に対する話題、意見など（比較的短い文章）。

• 書評：書物に対する評。

• エッセイ

• その他

3. 投稿原稿の作成及び提出

3.1 原稿の様式

別紙執筆要領※1に従うこと。

※1　執筆要領及びその他の書類は下記URLを参照のこと。

http://cscd.osaka-u.ac.jp/data/orangebook/

3.2 受理日

投稿原稿が編集担当に到着した日付をもって原稿の受理日とする。

3.3 内容

投稿原稿の内容は、原則として他の書籍・雑誌において未発表でかつ査読中でないものとする。

4. 査読手続き

4.1 査読の対象となる原稿

論文および実践報告とする。研究ノートについては、論文や実践報告に準ずる短報、提言、資料等を原則として対象とするが、その判断は編集担当に一任することとする。

4.2 査読者の選出等

投稿された原稿について、編集担当が2名の査読者を選出し、別紙の査読要領にしたがって査読を行う。

4.3 投稿原稿の採否

査読の結果に基づいて編集担当が決定し、投稿者に通知する。

4.4 原稿の修正

査読照会事項について原稿の修正を行う場合は、旧原稿と査読所見に対する回答書を添えて、編集担当が指定した期間内に書類一式を再提出する。

5. 著者校正

著者校正は1回とし、再校以降は編集担当が担当する。

6. 著作権

本誌に掲載された論文等の内容については、投稿者に著作権があるものとする。また本誌は、電子論文集としても発行し※2、原稿はWebサイトにPDFファイルで掲載するが、掲載の可否については投稿者の承諾を得ることとする。

また投稿において著作権者の存在する写真、図版、資料を引用する場合には、投稿者が責任をもって許可を得ておくこと。

※2　ただし、1号（2007年度号）以降については、大阪大学出版会と協議の上決定する。

7. 別刷り

別刷りは印刷しないが、投稿者へは版下データ（PDF形式）で掲載原稿を提供する。

8. 投稿期限及び投稿先

原稿の投稿申し込みは、氏名、投稿原稿タイトル（仮題）を記し、7月31日までに編集担当にメールで送付する。編集担当アドレスは、以下の通りである。

cscd-hensyu@cscd.osaka-u.ac.jp

原稿の投稿期限は10月10日17時とする。封筒に「投稿原稿在中」と朱記し、コミュニケーションデザイン・センター事務局庶務担当に提出する。

付則

この規定の改正は、2007年6月から施行する。

編集後記

出版物やウェブサイトをつくっていくことは、組織が外に向ける「顔」を描くことになるので、苦労も多いがやりがいのある面白い仕事です。また感覚的に「外」に接しているデザイナーたちと、差し向かいでおこなう協働作業はいつもスリリングで、新しい発想の源泉にもなります。そうした面白さが読者のみなさんとも分かち合えることを期待します。本

設立後3年を経たCSCDは常にカタチをかえながら、動き続ける面白い現場です。
この号はまさに、この動き続ける現場から生み出された3年間のリソースが堆積し、新しいカタチとなって生まれました。文章や写真だけでなく、映像、素材、形など、どれもが現場に結びついています。次号ではどのようなカタチが生み出されるのか、どうぞお楽しみに。清

多分野・多業種のスタッフ陣によるコミュニケーションデザインを映し出す媒体であり、その編集自体が一つのプロジェクトにもなっているオレンジブック。2年目の今年は、多彩な実践報告から、1冊目で語られたCSCDの構想がどのように動き出し展開されようとしているのかが読み取れる。3年目は何が生み出されているだろうか。乞うご期待。菅

2年目のオレンジブックは、さまざまな考え方の競合であり、可視化であり、事柄であった。例えば、一般用語としての視点、専門用語としての視点、学術的用語としての視点。執筆者と査読者ならびに関係者の深い思索交流に、心から謝意を表すと共に、その交流からG・ライルの言葉を思い出したのでそれを記しておきたい。「一方の視点――世界を探索しているとき、素人と科学者とが同様にもつ視点――からすれば、私たちは知覚することによってそこに実際に在るものを発見する」中

2年目となった本誌の論文と実践報告の査読。多彩な学術領域と社会実践が集まるCSCDからの成果発信を、専門的な質を確保しつつ、広く他領域にコミュニケートされるよう評価することは、今年度も困難を極めるジッケンだった。労をいとわず取り組んで下さった執筆者と査読者諸氏にふかく感謝申しあげたい。平

本年度のオレンジブック・プロジェクトは、2007年度号の企画・編集を進めつつ、同時に「販売」の可能性を模索してきた。無事、大阪大学出版会との共同発行と出版会からの販売が可能になったが、ここに到る過程は、多様な関係者との間での更なるコミュニケーション回路を作り出す、新たな実験プロセスでもあったと思う。そしてその分だけ、多くの人の思想を吸収し、咀嚼してきた。本誌を手にとって下さった方と新たな対話がはじまることを、そして新たな思想のかたちが作り出されることを楽しみにしています。西

Communication-Design 1

異なる分野・文化・フィールド ── 人と人のつながりをデザインする

企画　大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

編集・制作　西村ユミ
平川秀幸
中西淑美
菅磨志保
清水良介

第1部 編集・制作　本間直樹

編集協力　中村光江
川上展代

アートディレクション　清水良介
デザイン　清水良介
遠藤裕美子

2008年3月31日　初版第1刷発行　［検印廃止］

発行所　大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）
〒565-0826　大阪府吹田市千里万博公園1-1
Tel. 06-6816-9494　Fax. 06-6875-9800
http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/

大阪大学出版会
〒565-0871　大阪府吹田市山田丘2-7　大阪大学ウエストフロント
代表者　鷲田清一
Tel.・Fax. 06-6877-1614（代表）
http://www.osaka-up.or.jp/

印刷所　岡村印刷工業株式会社

©Center for the Study of Communication-Design and Authors. All Rights Reserved.
2008　Printed in Japan
本書における全ての著作権は、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターとその著者に帰属します。
無断転載を禁ず。

R〈日本複写権センター委託出版物〉
本書を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。
本書をコピーされる場合は、事前に日本複写権センター（JRRC）の許諾を受けてください。
JRRC ［http://www.jrrc.or.jp　eメール：info@jrrc.or.jp　電話：03-3401-2382］

ISBN 978-4-87259-270-2
ISSN 1881-8234